

寺護りの老婆は巡禮者を導いて、大王の棺室の前に立ち、聲高に説明の語句をくり返して居る。

「大ナポレオンも嘗て爰に立ちて、禮拜した事がある。」

る。彼曰く、大王は困難の時に、最も偉大なる人物なり。大王よ。大王若し今世に在らば、余は恐らく今、爰に立つを得ざる可し」

歐洲の天候と戰場 (上)

文學士 中 目 覺

一 はしがき

今回の歐洲戰に於て地理學の方面から見て著しい事實は、戰爭の舞臺が極めて廣くなり、従つて大面積操縦力のある者が常に機先を制して勝利を得るといふことゝ、天候が作戰に少からぬ關係を有し、従つて氣象學的智識に富み、其利用に巧な者が亦勝を占めるといふことである。この二つの點に於て獨逸人が他の國民に優つて居る様に思はれる。面積操縦 (Raumverwältigung) に關しては

ラツツエル博士が政治地理學第五編第十三章に精しく述べて居る。

獨逸人が天氣豫報に重きを置いた例を舉げて見よう。白耳義のユツクル (Döge) に氣象觀測所があつたが、之は一九一四年八月二十日に獨軍野戰測候所と改まり、尙ほ同種のをリエーヅ (Liese) ナミュール (Namer) 及び海岸の諸地に設け、専門家をして下層及び高層の氣象觀測をさせ、其結果をハンブルグの海洋島へ打電する。ユツク

ルの觀測所は同年十一月には中央天氣觀測所となつた。また毒瓦斯の使用を發明したのも獨逸人であるが、之は天候との關係が極めて密なものである。瓦斯の分量と風位、風速との間には微妙な關係があつて、獨逸人は早くから之を研究して居つたのである。また西部戰線で獨軍が之を使用するには東風の時でなければならぬが、此地方は西風の多い所であるから、餘程天氣を豫察する必要がある。一九一六年一月十三日の様に、毒瓦斯發射の後に風位が變つて失敗したことがないでもないが、概して成功して居る。之なども天候の利用が進んで居つた結果に外ならぬ。

天候が戰鬪に影響を與へたことは古今内外の歴史に澤山其例があるが、天候は今日にありては昔よりも一層重大な意味を有するに至つた。探照燈、飛行器、毒瓦斯、塹壕生活などは、昔はなくて今日の戰爭には必ず伴ふものであるが、是等は直接

天候の影響を受ける。又今日の戰爭は昔より激烈であつて、冬休むといふ様な事はない。色々便利な器械が發明されては居るが、重砲や裝甲自動車やタンクなどの運轉には天候が直接影響を與へるといふ有様である。歐洲戰に於ては此天候の影響が中々現はれて居る。之を考へて見たいと思ふのであるが、軍事専門の材料は我々門外漢には分らず又手に入らず、氣象専門の材料も手に入らず、止むを得ず地理學雜誌や其他の新聞雜誌の記事によりて大體の事を述べて見たいと思ふ。但しメソボタミヤも伊太利戰線もといふ事になると、餘りに範圍が廣くなるから、天候に直接の關係のある空中戰と、今回の戰場中で尤も重きを爲す西部戰線と、東部戰線とだけに限りたいと思ふ。

二 歐洲戰場の氣候

戰場の天候を考へる前に、氣候について簡単に述べて置く必要がある。西部戰線は歐洲の西部及

び北西部に當るのであるが、此方面は海に面し、灣流の影響を受け、海洋的氣候を有する地方である。故に夏は涼しく冬は左程寒くない。一月の平均氣温が攝氏で二度から四度の間である。東部戦線に移ると海洋の影響が微弱で、一月の平均氣温は五度位低く零下五度と二度の間にある。之は平均氣温であつて、年によると平均より五度位高かつたり低かつたりする。冬の寒氣は水運に大影響を及ぼす。西部戦線では海や川も凍らないが、東部になるにバルチック海は氷に惱まされる爲め砕氷船を使用する所がある。又此方面の川や湖水は大抵結氷する。キスツラ (Vistula) 河の如きは

ワルソー附近に於て十二月の末から三月の初まで結氷する。

歐洲の冬の天候は低氣壓の影響を免れない。この低氣壓はアイスランド附近の海上に起りて北東に進み、其影響が歐洲の北西部に及ぶ。此低氣壓

通過の結果、氣温と天候とに變動を來たす。即ち英吉利海峽、北海、バルチック海及び其附近は、之が爲めに冬の間屢雨雪を交へた大暴風が起り、航海者などに危険を及ぼす。

冬の氣候を東西戦線について比較すると、各一得一失がある。西部は氣温が一般に高いから獨逸ポーランドなどよりは雨、霰、泥が多い。間々寒い日があつても永續きはしない。而して時々暖かい日が來ると雪や氷が解ける。そして濕氣が強いから不愉快に感ずる。東部戦線では寒氣が永續きするといふ缺點はあるが、天候の變動が少なく、地面が絶えず凍つて居るといふ利益がある。

歐洲北部地方は 年の降水量五日三十糎乃至八百糎位である。北海岸地方は秋と冬に降水量が多いが、露西亞などは夏に雨が多い。東歐は寒いかから冬の降水は雪になる。それで雪は東へ行くに従つて深い。この雪は軍事行動に影響がある。又山

は概して西も東も雪が多い。

冬は東と西とで右の様な差があるが、夏は甚しい差がないと云うて宜しいから略して置く。

三 空中戦と天候

先づ空中戦と天候とから始める。

一九一四年秋より一九一五年五月に至る

飛行機で偵察をするには非常の晴天でない限り餘程低く降り、射撃砲で打たるゝ危険を冒さねばならぬ。霧や雲があつては偵察は出来ぬ。ロンドンでは秋になり霧が深くなるにつれ、ツエツペリの襲撃がないかと心配をした。そして探照燈で之を發見する試験などを行つた。敵味方共に霧や

寒氣や強風には飛行困難を感じたが、強風中にも色々の仕事をして居る。英吉利海峡の冬の暴風はツエツペリン防禦には屈強のものであつた。十二月末に獨飛行機がドーバーに爆弾を投下した時、之を驅逐しようとしたが、敵は霧の爲に踪跡をくら

ました。降誕祭の頃英飛行機がクックスハーフェン (Cuxhaven) を襲うたが、霧の爲めに目的を達せなかつた。之によつて霧は空中飛行に取りては尤も安全な隠れ場であるが、目的に達するには不便であることが分つた。一月十九日の獨人の空中攻撃は霧の爲めに目的を達せなんだが、追撃者も霧の爲めに敵を見失つた。

空中飛行には毎日の天氣圖が缺くべからざるものであることが分つた。獨人の空中攻撃は必ず霧の日に行はれた。天氣豫報の完全に行はれて居ることを證明する。

一九一五年五月より同年十月に至る

春から夏にかけて空中飛行に適する的時候となり、獨ツエツペリンの英國襲撃が頻繁になつた。さりながら死傷者の數が餘り多くないのは、闇夜に行はれて目標が見えぬ爲めであらう。冬に於けると同様に空中襲撃は霧のこめた夜に限られて居

つた。また天候の悪い時は安全だと思つて居つたが、東海岸の暴風にも係らず、ロンドンには八月九日に襲撃を受けた。八月十八日に英國の東海岸がツエツペリンの襲撃を受けたが、敵は天候不良の爲め悉く逃げ去つた。

七月中旬佛國飛行機三十五臺が獨軍根據地たるキニユールレハットンシヤテル (Vigneulles les Hattonchattel) を襲撃した。風は一時間四十哩の速度で吹いて居つたが、爆彈投下を行つて歸つた。

同月三十日に佛國飛行機四十五臺アルサスの石油工場攻撃に出た。曇天で且つ霧が處々にたなびいて居つた爲め、或者は目的地に達せなかつたが多くは爆彈投下を行ひ、悉く無事に歸つた。

この頃三十二臺の飛行機が同様の襲撃をザールブリュッケン (Saarbrücken) に對して行つた。この頃から獨ツエツペリンは雲の色を模倣して薄鼠色に塗り換られた。雲の下を通つて居つても

分らぬ様になつた。

一九一五年十月より一九一六年二月に至る

空中戦は益々天候の利用に重きを置くに至つた。獨ツエツペリンは常に曇天を利用して居る。一月二十三日に月夜を利用して英國ケント (Kent) の海岸に爆彈投下を行つた。獨飛行機がある。この後間もなく同様の襲撃があつたが、濃霧の爲め着弾不正確であつた。

一月二十九日より三十日に至る夜、巴里が空中襲撃を受けた。佛人は、霧の爲に射撃砲で撃退し兼ねた爲だと辯解して居る。

一九一六年の春夏

三月初めに吹雪の際、北東の輕風に乗じて、英國が空中襲撃を受けた。是より前ツエツペリンが雪の重みに堪はず落ちたことが頻繁にある。

四月二十五日に南西の風に乗じ、晴れた闇夜に三臺のツエツペリンが英國の東部地方を襲撃した

此迄は空中襲撃は東風の時に限られたが、今回始めて逆風の時に來襲した。獨人は益々天候の研究を積んだらしく思はれる。又超ツエツペリンに至りては風雨を甚しく意とせざる様になつた。

五月の初ツエツペリン第二十號が強風の爲め東へ吹き飛ばされて諾威海岸に落ちた。五月六日に若干の佛國繫留氣球が突然の暴風の爲めに獨軍陣地へ吹き飛ばされた。

斯く尙ほ降雨、雷雨、低雲、不良の天候が飛行に障害を來たすを免れぬ。また雲、霧のある時は低空飛行を餘儀なくせられ、砲撃に遇ふ危険がある。

ツエツペリン襲撃に對しては、天候が英國最良の友軍であるといふは明言である。

“Our greatest ally has been the whather.”

一九一六年の秋冬

獨人は尙ほ霧の多い天候を利用して英國襲撃に

來るが、英國では探照燈の設備を充分にした爲めに、來襲に好都合の天候でもロンドンまで來る機會が非常に減じた。風説によれば、此頃はツエツペリン來襲は西風の日を選ぶ様になつたとも云ふ之は砲撃を受けた場合に、僅かの動力で東へ落ち延びるに都合が良いからだといふ。

一九一七年の春夏。

この期間空中の活動は天候に伴うて消長があつた。雲が低く風の強い時は偵察飛行が少く、天候の良い時は盛に飛行が行はれた。しかし強風も暴風も段々と飛行の邪魔にはならぬ様になつて來た。雷雨の中に飛行した例さへ出來て來た。獨人が雲の中に隠れたといふ通信が屢あつた。彼等は防禦に雲を利用する事を深く研究したと見わる。獨人は概して飛行に曇天を選ぶ。之に反して英佛人は晴天を選ぶ様になつた。七月三十日英國飛行機數臺突然雲に遇ひ四臺を失うた。八月には西

が多かつた。獨人は此西風を利用して英國飛行機を獨戦線内へ追ひ込んだ。

英國に對しては獨ツエツペリン及び飛行機の襲撃が屢行はれた。何れも天氣模様的好い時を選んだのを見ると、獨の天氣豫報は餘程よく出來て居ると見える。彼等の來る時は概して天氣は好いが、薄霞がかゝつて居つて、飛行機がハツキリとは見ぬ時である。

潜航艇の搜索を飛行機で行ふことが漸く多くなつて來た。ペリスコープの立てる泡が飛行機から見ゆる。但し浪の高い時は之が分らぬが、斯る時は潜航艇の航行にも不便である。

一九一七年秋より一九一八年初に至る。

戰爭の初期に於ては飛行に不適當と信せられた天候も、此頃に至りては、困難ではあるが飛行を妨ぐるに足らぬ様になつた。暴風、低雲、豪雨の際の飛行は困難には相違ないが、絶えず行はれて

居る。かゝる際に不可能であるのは飛行中の寫眞撮影である。

飛行船の方は益々發達し、超ツエツペリンの如きは、氣象的變化の障害を殆んど受けぬまでに進歩したと言はれて居る。

英國に對する襲撃は左程の成功はなかつた。

九月四日の月夜と薄霧に乗じてロンドン襲撃が行はれた。

九月三十日に同じく月夜と薄霧に乗じて襲撃が行はれたが、此時は無風であつた。

十月二十日の空中襲撃は大規模のものであつた。十臺餘で編成された襲撃隊が、英國からの歸途、北東風に妨げられて根據地に歸れず、佛國で捕獲された。一説には霧の爲めに道を失うた爲めだとも云ふ。濃霧は飛行に尤も妨害となる。

十月三十一日は薄霧と浮雲とが糊びいて居る理想的の天候であつたが、果して襲撃が行はれた。

十二月六日は理想的の飛行日和であつて、同じ天候上ロンドン人は安心して居つたのである。襲撃が行はれた。之まで一月以上も襲撃を受け 一月二十八日のロンドン襲撃は、満月で天になかつたのは、全く天候の關係である。 點の雲のなき夜に行はれた。

十二月十八日のロンドン襲撃は不意打であつた

シカゴ大學に於ける歴史批判學について

文學士 松本彦次郎

アメリカ合衆國に於ける全史學界の趨勢を論ずることは極めて困難である。ハアバート大學のロイス教授が死んでから、アメリカの哲學はブラグマチズム化せずんばやまざる勢である。否アメリカ人の生活そのものが實用的である。又今度の戰爭から生るゝ悲劇と、國民主義の創立及びその發展に基く理想界の變遷についての豫想は、それと今史學界の關係とは間接的のものであるからし

て、こゝに論じようとはしない。アメリカの大學は劃一制度の下にあるものではないだけ、それだけ各大學に於ける學科の配當や選擇も極めて自由である。それであるから各大學一般に就て論ずる事は不可能である云うてよい。又従來外國の大學に就ての紹介は極めて概括的でもあり、拙象的でもあつた。又日本の留學生の多くは所々の大學に轉じつゝ、その長短所を比較し